

研究課題 (テーマ)		看護師の対患者における「援助的態度」に関する質的記述的研究	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	富山県立大学看護学部	講師	杉山由香里
分担者	富山大学医学薬学研究部	教授	比嘉勇人
	富山県立大学看護学部	教授	田中いずみ
	富山県立大学看護学部	助教	浜多美奈子
	富山県立大学看護学部	助教	遠田大輔
	和洋女子大学看護学部	教授	竹内久美子
研究結果の概要			
<p>【目的および背景】</p> <p>看護には一般的（社会的）なコミュニケーション力だけではなく、看護という専門性に根ざしたコミュニケーション力が必要とされている。その中でも、患者自身が病気や障害の回復の受容過程が進む、あるいは健康回復と維持を目指した行動が促進されるなど、内面的成長の促進を目的とした「援助的コミュニケーション」に関する研究についてはまだ基礎研究の段階である。加えて、「コミュニケーション・スキル」について注目した研究はいくつかあるが、援助的コミュニケーションの基盤となる援助的人間関係の発展過程に注目した研究はまだ少ない。そこで、本研究では、看護師が患者の内面的成長を目指して援助的人間関係を開始していくときの看護師の認知および評価を「援助的態度」と定義し、援助的態度の様相を明らかにすることで、看護専門職としてのコミュニケーション力の質を高めていくための基礎資料が得られると考えている。</p> <p>【結果】</p> <p>8名の看護師にこれまで看護した患者で、患者の気持ちが回復に向かって変化した、患者自身が自己を振り返るようになる、患者の言動や態度がポジティブに変化したなどの変化があった患者とのコミュニケーション場面についてインタビューを行った。インタビューは1回40～60分で、1人2回実施した。</p> <p>インタビュー内容を看護師が患者と援助人間関係を開始しようとするとき、自分が認知したことをどのように評価し、患者に意識を向けているのかについて含まれる内容すべてを抽出し、類似点および相違点に基づいてサブカテゴリを作成した。現時点までの分析において15のサブカテゴリを生成している。</p>			
今後の展開			
<p>8名の対象者よりデータを収集しているが、まだ十分にデータ収集できていないため今後も対象者を増やし、データを収集していく必要がある。十分なデータが収集できた時点で、再度分析を行っていく予定である。そこで得られた結果をもとに、質問紙調査を行い層別化による多変量データを解析することでより広い適用範囲を有する包括的な理論モデルを作成し、援助職者全般に適用できる援助的コミュニケーションプログラムを開発していくことが今後の展望である。</p>			